

## 港湾交通対策特別委員会中間報告

## 1 付議事件

- ・北陸新幹線建設促進と駅周辺整備の推進
- ・地域高規格道路松本糸魚川連絡道路市内区間の整備区間への昇格
- ・一般国道8号糸魚川東バイパス梶屋敷～押上間の早期完成と間脇～梶屋敷間の調査
- ・北陸新幹線開業に伴う並行在来線の調査、研究と大糸線の活性化調査
- ・姫川港貨物取扱い急増に伴う整備計画の早期完成と次期計画の調査と整備推進

## 2 調査内容

## ① 北陸新幹線建設促進と駅周辺整備の推進について

新幹線駅の停車数について、「県内でも全列車を停車するように、特に仮称上越駅は全車、糸魚川についても可能な限り停車」の2点を5月に合意した。「仮称上越駅全車停車、糸魚川駅利便性の向上」がセットであり、糸魚川駅が通過駅ということになれば、反対の大きな行動を起こさなければならぬが、現在はセットの中で要望している。

新木浦トンネル工事に伴い水脈が枯渇したことについては、鉄道・運輸機構が今後地元と誠意をもって交渉するといっており、市もできることは間に入って協力する。

赤レンガ車庫の切り取り保存の費用について、鉄道・運輸機構からは、当初の取り壊し費用は負担をすることの確認を得ており、不足分は市の負担となり、一部は市民の協力をいただく中で対処していく考えである。

新幹線駅舎のデザインについての意見・要望については、基本設計で3案くらいが提示され、その中から1つを選択する話を聞いており、3案からの選択とそれにプラスしてのいろんな施設等の要望を、その時点で市民の意見、市長の意見として集約していきたい。

委員からは、赤レンガを使ったデザインを保存利活用の観点から基本設計に組み込めないか。市民要望に応える努力をしてもらいたいことや、他の例を参考にしながら、すでに出来ている施設を見て、駅舎を建設すべきとの要望があった。

自由通路及び橋上駅舎について、今後どのような整備方針で進めていくか準備をしており、3月議会で審議をした後、JR西日本と協定を締結して事業を進めていく必要があると考えている。

## ② 地域高規格道路松本糸魚川連絡道路市内区間の整備区間への昇格について

国の事業仕分けでの松糸道路の扱い、また政権交代に伴う従来型の陳情形態からの変更への対応について、市としても情報を収集しており、地元の要望を直接関係省庁に上げられないか確認したい。

委員からは、国への要望活動については、松糸道路に限らず、今後、大型公共事業をどう推進していくか、新たに戦略局を設置して対処していく必要があるのではないかと意見が出された。

## ③ 一般国道8号糸魚川東バイパス梶屋敷～押上間の早期完成と間脇～梶屋敷間の調査について

今後の計画の見通しについて、今年度末に暫定供用となる梶屋敷～大和川間から先の押上までの間については、既に大和川を越えた中で工事が発注されている。政権交代によって道路予算の枠も厳しい中であるが、国土交通省高田河川国道事務所等では、間脇～梶屋敷間についても、東バイパスの一環としての認識は持っている。

## ④ 北陸新幹線開業に伴う並行在来線の調査、研究と大糸線の活性化調査について

北陸新幹線開業後の在来線を第3セクターで管理運営することについて、政権が代わったことから政府・与党合意を見直して、JRに引き続きやってもらうことをどう考えるかとの質疑に対して、当時とは経済状況や政権交代など情勢が変わっていることもあり、このまま地方の負担が多いままではやっていけないというのは同じ思いである。今後も関係者と連携を深めて何らかの働きかけをしていきたいとの回答があった。

## ⑤ 姫川港貨物取扱い急増に伴う整備計画の早期完成と次期計画の調査と整備推進について

関税法による開港指定がされたことによって、特別トン贈与税が入ってくることになり、平成20年の外国船入港実績からすれば、年間180～190万円になると予想される。平成21年度については、今後約94万円の歳入を補正予算で計上する考えである。